

作成日 2018年10月1日

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 フユカ フレグランスベースオイル  
 製品の説明 炭化水素系溶剤  
 主用途 室内芳香剤  
 供給者 有限会社 ハル・ライトワーク  
 住所 広島県広島市中区舟入南1-12-11  
 電話番号 082-503-8460  
 FAX番号 082-503-8461

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体 区分外  
 自然発火性液体 区分外

健康有害性 吸引性呼吸器有害性 区分1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

### GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

安全対策 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
 応急措置 無理に吐かせないこと。  
 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

保管 施錠して保管すること。  
 廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質  
 化学名又は一般名 炭化水素系溶剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
蒸留(石油), 水素化処理した軽質留分	100重量%	特定できない	(9)-1690	既存	64742-47-8

通知すべき危険有害性のある組成物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を表示又は通知すべき 危険物及び有害物  
 なし

## 4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。



気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

水と石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。  
無理に吐せないこと。  
直ちに医師に連絡すること。

## 5. 火災時の措置

消火剤

小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、一般の泡消火剤。  
大火災：散水、水噴霧、一般の泡消火剤。

使ってはならない消火剤  
特有の危険有害性

棒状注水。  
極めて燃え易い：熱、火花、火炎で容易に発火する。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。  
蒸気は空気と爆発性混合気を形成する。  
蒸気は着火源にまで達し、発火することがある。  
蒸気は空気より重く、地面に沿って拡がり、低いところや密閉部分にたまる。  
屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。  
火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。  
消火水が汚染を引き起こすおそれがある。  
吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。  
蒸気は、めまいや窒息を引き起こすおそれがある。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
これらすべての物質は引火点が極めて低い：消火の効果がない  
おそれがある場合は散水を行なう。  
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。  
大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。  
安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。  
火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
消火を行う者の保護  
空気式呼吸器（SCBA）を着用する。  
防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎない。

特有の消火方法

消火を行う者の保護

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外は近づけない。  
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
作業者は適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
風上に留まる。低地から離れる。  
立ち入る前に、密閉された場所を換気する。



環境に対する注意事項 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。  
環境中に放出してはならない。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法・機材 すべての発火源を取り除く（近傍の喫煙、火花や火災の禁止）  
危険でなければ漏れを止める。  
少量の場合、砂あるいは不燃性吸収材を用いて集め、  
容器に入れて後で廃棄する。  
大量の場合、液体の前方にせきを作り、後で廃棄する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、  
保護具を着用する。

安全取扱注意事項 火気注意。排気用の換気を行うこと。  
吸入、飲み込みをしないこと。  
飲み込みを避けること。  
皮膚との接触を避けること。  
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避 『10. 安定性及び反応性』を参照。  
衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。

### 保管

安全な保管条件 保管場所は屋内倉庫で、屋根を不燃材料で作るとともに、金属  
板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。  
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とす  
ること。  
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当  
な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。  
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、  
照明及び換気の設定を設ける。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。  
禁煙。  
酸化剤から離して保管する。  
容器を密閉して保管すること。  
施錠して保管すること。  
安全な容器包装材料 消防法で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
		日本産衛学会 （2015年版）	ACGI H
蒸留(石油), 水素化処 理した軽質留分	未設定	未設定	未設定

設備対策 密閉する設備、局所排気装置又はプッシュプル型換気 装置を設  
置する。  
本製品を貯蔵又は使用する設備は、洗眼できる装置及び安全  
シャワーを設置したほうがよい。

### 保護具

呼吸器の保護具 送風マスク又は有機ガス用防毒マスクを着用すること。



手の保護具	換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な手袋を着用すること。
目の保護具	適切な保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態 形状 色	液体 液体 無色
臭い 臭いのしきい(閾)値		無臭 データなし
pH 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲 引火点 蒸発速度(酢酸ブチル=1) 燃焼性(個体、気体) 燃焼又は爆発範囲	上限 下限	適用外 凝固点: -77℃ 218 - 257℃ >94℃(測定方法: ASTM D-93) <0.01 適用外 0.6 vol% 4.9 vol%
蒸気圧		0.012 kPa (0.09mmHg) (20℃) 0.044 kPa (0.33mmHg) (38℃) 0.137 kPa (1.03mmHg) (55℃) 6.5 (101kPa) (計算値)
蒸気密度(空気=1) 比重(15.6℃) 密度(15.6℃) 溶解度 n-オクタノール/水分配係数 自然発火温度 分解温度 粘度(粘性率) 動粘性率		0.791 0.790 g/cm <sup>3</sup> 水にほとんど溶けない(無視できる) データなし >200℃ データなし データなし 2.57 cSt (2.57mm <sup>2</sup> /s) [40℃] 3.57 cSt (3.57mm <sup>2</sup> /s) [25℃]

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性 危険有害反応可能性	通常の条件においては安定である。 過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応は起こらない。
避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物	加熱、高温の物体、火花、裸火、静電気火花。 強酸化剤。 常温では分解しない。 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素が発生する。(推定)

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口	データがなく分類できない。 類似構造物質: ラット、LD50>5000mg/kg
	経皮	データがなく分類できない。 類似構造物質: ウサギ、LD50>5000mg/kg
	吸入(蒸気)	データがなく分類できない。 類似構造物質: ラット、LC50(4h) >5000mg/m <sup>3</sup>



<p>皮膚腐食性及び刺激性 える。 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性</p>	<p>データがなく分類できない。 類似構造物質：長期間の暴露により、皮膚に軽度な刺激を与</p>
<p>皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 特定標的臓器毒性（反復ばく露）</p>	<p>データがなく分類できない。 類似構造物質：皮膚感作性は予測されない。 データがなく分類できない。 類似構造物質：生殖細胞変異原性は予測されない。 データがなく分類できない。 類似構造物質：発がん性は予測されない。 データがなく分類できない。 類似構造物質：生殖毒性は予測されない。 データ不足のため分類できない。 単回ばく露によって、臓器の障害は予測されない。 データがなく分類できない。 類似構造物質：長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の 障害のおそれは予測されない。</p>
<p>吸引性呼吸器有害性</p>	<p>GHS:区分1「飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ」に該当する。</p>
<p>1.2. 環境影響情報 水生環境有害性（急性） 水生環境有害性（長期間） 生態毒性 残留性・分解性 オゾン層への有害性</p>	<p>データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 水生生物に対する有害性は予測されない。 水生生物に対して慢性毒性を及ぼすことは予測されない。 易分解性と予測される。 加水分解や光分解による変性は少ないと予測される。 空気中で速やかに分解することが予測される。 モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を 含まないため分類されない。</p>
<p>1.3. 廃棄上の注意 残余廃棄物  汚染容器及び包装</p>	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは 地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託し て処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を 充分告知の上処理を委託する。 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行 って危険有害性のレベルを低い状態にする。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体 の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>



## 1 4. 輸送上の注意

国際規則	Regulatory Information by Sea Harmful Liquid Substances	Not dangerous goods Applicable
海上輸送(MARPOL条約一付属書Ⅱ)	Regulatory Information by Air	Not dangerous goods

製品名 有害液体、N.F.,(9)N.O.S., (ISIPAR M,イ-及び、シカアルカ(C12+)を含む)

船型 : 汚染 3

区分 ; Z

国内規制	陸上規制 海上規制情報 有害液体物質 航空規制情報	消防法の規定に従う。 非危険物 該当 非危険物
------	------------------------------------	----------------------------------

特別の安全対策

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。  
危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載すること。  
移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に 行う。運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの 消防機関その他の関係機関に通報すること。重量物を上積みしない。  
輸送時にイエローカードを携帯する。

緊急時応急措置指針番号 なし

## 1 5. 適用法令

右記の国/地域の既存化学物質名簿に記載	AICS, IECSC, DSL, ENCS, KECI, PICCS, TCSI, TSCA
化審法	既存化学物質
消防法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体（法第2条 第7項危険物別表第1）危険等級 III
下水道法	鉱油類排出規制（5mg/L 許容濃度）
水質汚濁防止法	油分排出規制（5 mg/L 許容濃度）
道路輸送車両法	爆発性液体

## 1 6. その他の情報

連絡先 有限会社 ハル・ライトワーク

参考文献 NITE GHS分類公表データ  
EU CLP Regulation, AnnexVI  
ECHA Registered substances Database



記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。

又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものです。

特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。

